

# 型等取引に係る課題等

[ 第2回自動車サプライチェーン取引適正化会議 ]

一般社団法人 日本自動車工業会  
2026年 4月 20日

## これまでの取り組み

### 1. 型等の保管費の適切なお支払い

自工会では、公取委・中企庁からの要請、取適法違反事例の共有などを通し、適正取引化に向けた会員企業への浸透活動、また、法令・ガイドライン改正の趣旨に資する自主行動計画の改訂・特に留意が必要な項目をまとめた徹底プランも適宜改訂し、加えて、自工会・部工会が共催する形での適正取引推進セミナーの開催、個社内における研修・Eラーニング等、サプライチェーン全体への浸透に努めてきた。

### 2. 型廃棄促進に向けた取組み

部工会と連携した型の適正管理に向けたワーキング活動において、部品品番と型の紐付けに関するベストプラクティスを策定するとともに、金型等の廃棄につながる対応について共有・議論している。

## 保管費用における課題

項目	発注者の課題・困りごと	サプライチェーンでの課題
確認・調査の負荷	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入先へ確認をおこなっても<b>回答が得られない</b>ケースがある。</li> <li>金型の保管状態に関する調査を<b>拒否される</b>ケースがある</li> </ul>	非稼働金型等の有無・状況確認に相当な <b>時間がかかる</b>
費用算定・合意形成	通常の <b>合理的な算出方法</b> （専有面積×地域の倉庫費用+α）で保管費用を合意できない場合がある （例：「他社では認めてもらっている」等）	個別の品番・型ごとの保管費用算出の <b>工数が膨大</b> となる（型サイズの確認等）
運用面・責任範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>一括生産・廃番により金型が廃却可能な状態にもかかわらず、<b>廃却が実施されない</b>ケースがある</li> <li>取引先資産型について、発注者として<b>どこまで関与できるのか</b>が不明確</li> <li>型の打ち合わせで仕入先を訪問しても、<b>専任者不在</b>で営業担当対応となり、実務が進みにくい。</li> </ul>	—

適正取引の推進と現場負荷の最適化をどう両立するか

## 型廃却に繋がる取組み

一括生産(繰上げ生産)などにより、生産期間短縮や型廃棄につながる制度(品番LIST等を提供)

一括生産 = 量産が終了し旧型となった部品が一定期間経過後、最終需要を見込んで繰上げ生産し、以後の発注を停止して型廃棄につなげる取組み

項目	発注者の課題・困りごと	サプライチェーンでの課題
制度・リスト認知不足	制度や対象リストの浸透不足により型廃却が進まない	—
工数・体制不足	—	補給部品対応の優先度が低く、人員・時間不足により制度推進が困難
品質・長期保管リスク	長期保管による品質劣化の懸念	
保管スペース問題	一括生産後の保管場所が確保できない	
生産能力不足	—	現行生産優先で補給対応の余力なし、生産計画の提示も出来ない
情報管理・データ整備不足	型と品番の紐付け等の情報管理が不十分	
型廃却の構造的課題	—	共用型や共通品のため廃却が進まない
需要予測が難しい	車両使用年数の長期化により、打切り年限とのミスマッチが発生(ユーザーの不利益)	—

特に、中小事業者においては、マンパワー及び体制の課題（補給部品の専任がいない、型管理の専任がいない）、生産能力の課題により一括生産（繰上げ生産）が進まない状況があると思われる

# ベストプラクティス(例)

## 貸与金型と品番の紐づけ ベストプラクティス



	目的	課題	対応方法/対応案
貸与型	金型と品番の紐づけを明確化し、管理を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>型の設置・保管場所・型サイズの管理</li> <li>紙データとシステムデータの混在</li> <li>同一型で製造する複数品番の管理(品番追加)</li> <li>型の移動時の情報更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先と共有する書類に金型の資産番号と品番を記載</li> <li>貸与型を社内の固定資産システムに入力する際に保管場所・品番を登録</li> <li>固定資産管理とは別のシステムを使って型情報を入力し品番との紐づけを行う</li> <li>棚卸のタイミングで、貸与型とその金型で生産する品番の組み合わせの確認をおこなう</li> <li>取引先もアクセス可能な型管理クラウドサービスを導入する</li> <li>稼働状況・位置情報を容易に把握する為、QRコードを貼り付けて管理</li> </ul>

## 参考：取引先資産金型と品番の紐づけ



	目的	課題	対応方法/対応案
資産型	金型と品番の紐づけを明確化する (管理は取引先)	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先で紐づけ管理がDB化されていない為、情報を入手することが困難</li> <li>膨大な量の取引先資産型情報を把握することが困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単価契約時に、使用する型の情報を登録できるシステムを構築する</li> <li>複数の型を所有している場合、旧型時に新しいもの以外は廃却を要請</li> <li>年度毎に1年間発注の無かった型の情報(寸法・対象品番)を優先し共有する</li> </ul>
	金型ID (貸与/資産)	品番 (量産・補給)	台帳/システム一元管理 ・金型IDと品番を標準ルールで紐づけ ・OEM/サプライヤ間で同一情報を参照

## 課題／困り事を踏まえた今後の対応

### 1. 適正取引化の推進（保管費用等の工数抑制）

引き続き適正取引化に向けた取り組みを進める一方、取引先様の工数増は負担増につながるため、工数を増やさない運用・仕組みを部工会と連携して検討・推進する。

### 2. 型廃却に繋がる取り組み

方針説明等の機会を活用し、廃番通知や一括生産（繰上げ生産）などの型廃棄に繋がる取り組みを、取引先様にご理解いただき、実務での活用を促進する。

部工会との型WG活動を継続し、型の適正管理・廃却促進等に関する対策を共有・議論する。

#### スケジュール(案)

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
適正取引意見交換会	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆
型廃棄への取り組み浸透	☆			
部工会とのWG活動	☆	☆ ☆	☆	☆ ☆

ご清聴ありがとうございました。

以上